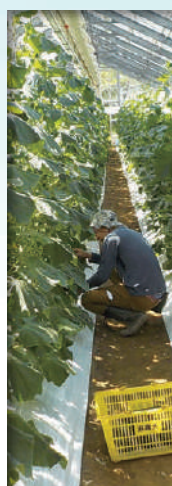


令和5年度
発行

就農への ステップ・アップ!!

SHIGA PREFECTURE AGRICULTURAL COLLEGE



専修学校
滋賀県立農業大学校

滋賀県で農業を仕事にしよう！

～農業大学校で学んだ経験を活かした就農～^{しゅうのう}

1 滋賀県で農業を仕事にしよう！

農業は、土を耕して米や野菜などを育てる耕種農業と、牛や鶏を育てる畜産があり、どちらも自然と向き合い、また自分の生産した農畜産物を消費者に届けることもできる、魅力あふれる職業です。滋賀県は、琵琶湖をはじめとする豊富な水を利用した水田農業を中心として、野菜や果樹、花、茶、畜産等も幅広く生産されており、毎年約100名の人が新たに農業を始めたり大規模な農業法人へ就職するなどして、農業を仕事にして頑張っておられます。特に30代以下の若者が就農者の68%を占めており、たくさんの若者が農業を仕事に活躍しています。

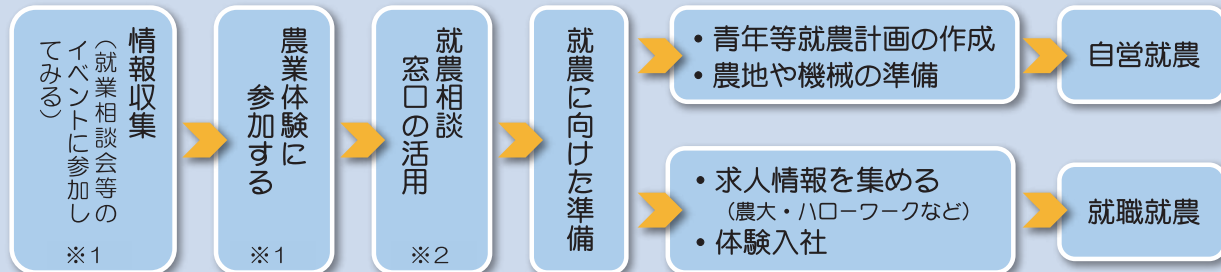
2 「就農」＝「農業を仕事にする」とは？

「農業を仕事にする」ことを「就農」といい、「自営就農」と「就職就農」の2つのパターンがあります。「自営就農」とは、自分が経営主になって経営を行ったり、親等の経営に参画して一緒に農業を行うことをいいます。一方「就職就農」とは、農業法人（農業を営む会社）に従業員として就職することをいいます。

最近では、非農家出身で就職就農されるケースが多くみられます。また、いったん農業法人へ就職して技術を身に付け、資金や農地の準備を入念に進めてから、自営就農する例も多くあります。



就農までのステップ（例）



※1 県が行う就業相談会や農業体験等については、（公財）滋賀県農林漁業担い手育成基金ホームページで開催日程をお知らせしています。<https://shiganou.work/>

※2 県では（公財）滋賀県農林漁業担い手育成基金に「就農相談員」を設置し、年間を通じて問合せや相談にお答えしています。

3 就農を応援する制度（資金の交付・融資には年齢・所得等の要件があります）

●新規就農者育成総合対策

①就農準備資金

滋賀県立農業大学校などで就農に向けた研修を受ける場合、研修期間中（2年以内）について、年間最大150万円の資金を交付します（就農時49歳以下）。

②経営開始資金

独立して自営就農する「認定新規就農者」に対して年間最大150万円の資金を、最長3年間交付します（就農時49歳以下）。

●青年等就農資金（無利子融資）

市町が認定した「認定新規就農者」が経営開始するときの無利子長期資金です。

償還期限17年以内（据置期間5年以内）、貸付限度額3,700万円（特認限度額1億円）

融資機関：株式会社 日本政策金融公庫

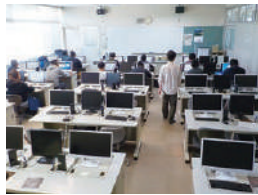
農業大学校で農業を学べる!!

～実践学習を通じて農業に必要な能力を養成～

滋賀県立農業大学校には、本県農業を担う優れた青年農業者等を育成する「養成科」と、就農に必要な技術と知識を習得するための「就農科」があります。農業大学校は、農業者育成施設であると同時に文部科学省の学校教育法に基づく専修学校で、養成科卒業生には「専門士」の称号が与えられます。卒業生は、多くの企業で短期大学卒業と同等に扱われています。

昭和44年の開校以来、養成科においては1,284名の卒業生が、自営就農や農業法人への就職就農、JA、あるいは機械・資材・種苗店、市場卸売り会社などに就職して活躍し、滋賀県農業の発展に大いに貢献しています。

また、就農科は平成19年の開設以来、167名が研修を修了し、ほぼ100%の修了生が県内で新規に就農し、地域農業の担い手として活躍しています。



農大卒業生・修了生の紹介

～就農して活躍しています!～

卒業生・修了生に「聞きました」

- 1 就農形態
- 2 就職就農：就農先、自営就農：経営形態（作目）就農されている市町名
- 3 就農までのみちすじ
- 4 就農して大変なこと・やりがい
- 5 就職就農：就農先での作業の工夫や努力していること、自営就農：栽培や経営の工夫、経営発展のポイント
- 6 今後の目標
- 7 就農に向けて農業大学校で学んでおくべきこと。就農後、学んでよかったなと実感できること
- 8 これから農業を始めたい人へのアドバイス（自営就農に就きたい人）（就職就農に就きたい人）



中川 亜希さん

令和2年3月 就農科修了

- 1 自営就農
- 2 長浜市でイチゴ、白ネギを栽培
イチゴ…育苗ハウス1棟、本圃ハウス4棟（計1,800㎡） 白ネギ…4a
- 3 子育てをしながら食育を大切に思い、豊かな自然の中で子どもたちと一緒に作物を栽培し、共に成長していきたいと思い、家族と相談のうえ、農業大学校就農科で1年間研修を経て、就農しました。

- 4 農大では経験しなかった規模での土運びや耕運作業などの重労働に毎年苦労していますが、毎年イチゴが赤い実をつけるとても安堵する気持ちと嬉しい気持ちでいっぱいになります。また、イチゴを食べた方が「おいしいね」と、言ってくれた時は、とても嬉しく思い、農家にしか味わえない気持ちにやりがいを感じます。
- 5 イチゴと白ネギを栽培することで、リスクの分散を図っています。また、イチゴでは現在、「みおしずく」をはじめ5品種を栽培することにより、収穫期をずらして作業の分散を図ると共に、品種によって販売先を変えることで、安定したイチゴの供給と安定した収入を得たいと考えています。経営発展のポイントは、圃場に病害虫を発生させないこと。病害虫の発生時にはすぐ気づき、すぐさま対応するようにしています。

- 6 何事にもチャレンジしていきたいです。栽培面では、化学農薬を減らす技術（天敵導入）や、環境測定機器を活用した、ハウス内環境の管理などに積極的に取り組み、安心、安全で高品質なイチゴを栽培していきたいです。
- 7 農業技術はもちろんのこと、農業は一人ではできない。そして、「人と人とのつながり」が深まる職業であることに気づきました。私自身、農大の先生、仲間をはじめ、先輩方や地域の農業者の方など出会った人のたくさんの温かさで、就農から販売までたどり着くことができました。農大で相談しあえる、たくさんの仲間に出会えて良かったです。
- 8 自分の性格に合った作物を見極めて、計画的に栽培していくことが大切だと思います。また、農業はやりがいがある、楽しいので、大きな夢と希望を持って現実を見て就農してほしいと思います。



杉本 三千代さん

平成31年3月 就農科修了

- ① 自営就農
- ② 甲賀市で「ぶどうや勇多八」を経営
作目：ぶどう18a（根域制限・簡易棚・雨よけ施設での改良仕立て栽培）
販売：庭先99%、出荷1%
- ③ 30年以上公務員をしていたが体調を崩したことで退職することになり、体調を回復するために自然と触れ合える農業への道を選んだ。以前より田畑を活用した起業がしたいと思っていたが農業について知らないことばかりなので、販売できる物を作るには基礎から学ぶ必要があると思い農業大学校で学ぶことにしました。

④ 一番大変だったのは、全くの素人が簡易棚や根域制限のポット、灌水施設など設備を自分たちでやらなければならなかったこと。栽培に関しては天候に左右される点では苦労することもあります。農大修了後も普及員さんのバックアップがしっかりあるので、不安や大変だと思ったことはありません。またお客様から直接声を聞くことで次へのモチベーションアップにつながっています。

⑤ 作業が一時集中するため、先を見越したスケジュール管理は徹底しています。ぶどうは一年に一度しか栽培チャンスがなく、今年の失敗を次に活かすのには一年後となるので、同じ失敗はしないよう一年一年大切に向き合っています。経営する上で大切にしていることは信用・正直。売れたらなんでも良いという考えは一切ありません。決してお客様を裏切らないよう品質を安定させる努力はしています。

⑥ ワクワクし楽しみながら昨年よりも今年、年々進歩・進化した経営や栽培をしていきたい。また微力ながら就農された方のお役に立てたらと思っています。

⑧ 農業は人が生活する上で最も必要な3要素である「衣食住」の内の「食」に携われることです。私たちが作ったものがお客様の口に入るといことは、自分が食べて美味しい、また安全で安心して食べられる物を自信をもって提供することだと考えています。農業大学校に行けば、異分野からの転職でも栽培に必要な基本的なことを学ぶことができ、安心して提供できると共に、学んだことを応用して活かすことで自信にもつながります。自分の作ったものがちゃんとした形となり、お客様に提供し喜んでもらえるというのは今までに感じたことのないうれしさと感動があります。また、自分の思いを自由に反映でき、独自の経営ができることや、考え方や独一つで新しいことにチャレンジできるたくさんの可能性がある魅力的な職業だと感じています。



③ 滋賀県立農業大学校



橋本 圭一さん

令和4年3月 就農科修了

- ① 自営就農（親が兼業農家）
- ② 甲賀市で花き（中輪菊、小菊、リンドウ、ストック）、野菜（白ネギ）を栽培
- ③ 農業について無知だったため、最寄りの農協へ相談に行き、県の農産普及課へつないでいただき、農大就農科への入校を勧められ修了後、自営就農を始めました。
- ④ 日々起こることが新鮮で楽しく、あまり大変だと思ったことはありません。やりがいを感じる時は、思い通りの結果が出た時や自分が作ったものが高く評価されたときなどです。
- ⑤ 栽培や経営の工夫：リスクを予防していくように動くことよい物ができることが多いです。秀品率の向上がそのまま単価に反映されるため、一つ一つの積み重ねが大切だと

感じています。経営発展のポイント：単純に栽培量を増やすことが経営発展の第一歩だと思うのですが、自分一人では作業量に限界がありますので、お手伝いしていただける方の確保が必須だと思います。

- ⑥ 一年を通して作業していく中で効率を上げられるものや、どうしても無理だったものが分かってきたので、今後は更なる効率化を図り、自由な時間を作っていきたいです。
- ⑦ 学んでおくべきこと：資金の準備については十二分に知識をつけられることをお勧めします。どのような補助金があるのか、就農の為にどのくらい資金が必要なのか、政策金融公庫から借りるための手続きなど、就農準備から就農して数年までのお金の入りと出を確実に把握するための知識を身に付けていただきたいです。ほかには機械の使い方も十分練習されたほうが良いかと思っています。私は主に土耕での作業が多いですが、始めた当初はうね一つ立てるだけでもかなり苦戦しました。学んでおいてよかったこと：実作業が大変だったこと、大変さを知れたこと。
- ⑧ 就農後の自分の生活がイメージできるかどうか、実現できそうかをしっかり考えて、夢を持って農業の道へ進んでいただければと思います。



川崎 香さん

令和4年3月 就農科修了

- ① 自営就農
- ② 長浜市で施設園芸、メロン・ミニトマトを栽培。現在ビニールハウス1棟（375㎡）。（令和6年には750㎡、令和8年には1,125㎡へ経営面積拡大予定）
- ③ 過去に農業に興味を持ち野菜の栽培研修に参加したことをきっかけに、野菜栽培の楽しさと面白さに気づきました。特に自分が育てた作物を「おいしかった」等言ってもらえることにやりがいを感じました。研修後はさらに知識を深めて自分自身で農業経営を行いたいと思い、メロンとミニトマトの品目で自営就農することを目標に滋賀県立農業大学校就農科を修了後に就農しました。
- ④ 自分が育てた作物を収穫する喜びやお客様からの「おいしかった」等のお声をいただくことがやりがいです。お客様との会話や作物を育てる楽しみ、また自分のペースで仕事と生活の時間配分を調整できることが農業を行う中で良い一面だとも思いました。やりがいと同時に、気象災害による施設の維持や近年の異常気象、作物を育てることの難しさに頭を悩まされることもあります。経営方針を自分自身で決定できる反面、様々な面で経験と判断力が必要となること大変さを感じます。
- ⑤ 施設園芸にて少量土壌培地耕による栽培で安定した生産を行っています。販売は基本的には直販を主としている為、市場価格に左右されない販売方法を確立していくことを目標としています。お客様と直

接コミュニケーションを取ることで、経営発展や経営改善のヒントが得られるので、日々のコミュニケーションを大事にしています。また滋賀県の支援制度を活用して各方面の専門家の方にアドバイスをいただいたり様々な研修に参加して、経営発展の為に様々な分野の知識を増やし農園と農作物のブランド化を目指しています。

- ⑥ 美味しい作物をつくることをポリシーに、お客様に喜んでもらえるような農園をつくりあげていきたいです。また自分自身も楽しめることや面白いことを考えて実行し、それが地域の方やお客様が喜んでいただけるようなことであれば最高です。現在は経営規模拡大と経営発展の為に行動しかできていませんが、今後は農業を目指している方や悩んでおられる方に農業の魅力や伝えたり応援できるような存在になりたいです。
- ⑦ 学校生活は案外短いので、自分が学びたいポイントや栽培の基礎やそれらに付随する様々な基礎を学ぶことが大事だと感じました。学校では様々な品目を学ばせていただきましたが、希望している品目とは違う品目の学習でも今後役に立つ情報は沢山あるので、視野を広く持ち学んでいただけたらと思います。就農後は、在学中に記録した栽培記録がとても役に立ちました。各作物の栽培ステージにおける管理作業記録を参考に、就農後も管理作業を進めることができました。
- ⑧ 全て自分で経営方針を決定していかなければならないので、判断力、体力、気力、モチベーションの維持が非常に大事だと思います。また、農業は気象や災害等の影響により毎年同じ条件で栽培ができるということではなく、様々な面で理想と現実のギャップが出てくる時が訪れるので、営農計画と様々な予測をしっかりと立て、臨機応変に対応していかなければなりません。忙しい最中には余裕が無くなることもあるかと思いますが、初心を忘れず目標を明確にして農業に取り組んでいただけたらと思います。



小笹 彩さん

平成30年3月 就農科修了

小笹 弘樹さん

令和3年3月 就農科修了

- 1 自営就農（2022年に家族経営協定を締結）
- 2 愛荘町でイチゴを栽培
- 3 大学卒業後、農業法人に就職するが、やらされる農業に嫌気がさし退社。その後独立を決意。農業大学校で1年間研修をし、2018年にいちご農家として独立（彩）結婚を機に、夫の弘樹が2021年に農業大学校に入校。1年間研修をし、修了後に就農。
- 4 毎年違う気候に対応するのがとても大変。しかし、作物のことを思ってしっかりと手をかけて管理をしていると、きちんとそれに応じてくれる。なによりもお客さんの「おいしい」の一言が一番のやりがい。
- 5 とにかく反収を上げることが求めている。そのために色々なセミナーで勉強をし、様々な設備投資をし、作物の力を最大限に引き出せるよう栽培管理を工夫している。
- 6 イチゴ以外の作物を展開すること。
- 7 就農後に育てる作物だけではなく、様々な作物と接する機会があったおかげで、栽培の視野が広がったと思う。就農後も相談しあえる仲間（同期や修了生）に出会えたことが一番ありがたい。
- 8 ここ5年でもたくさんの方が変わったので、ある程度の情報収集を事前しておくことは必要だと思う。始めたら後戻りできないので、最後は思い切りで！！始めてしまえばなんとかなる！という気持ちで今までやってこれるので、思い切りがあればきっと大丈夫です。



平井 翔さん

平成30年3月 養成科卒業

- 1 自営就農（親とは別の経営体）
- 2 高島市、栽培面積 50ha、米麦大豆 土地利用 イチジク、サツマイモ
- 3 家が農家で、幼少期よりトラクター等の機械が好きで乗っていて、将来は農家になりたいと思っていた。普通科高校から農大に進学し、卒業後は地元で就農。
- 4 十人十色。自分が栽培した作物は自分の味が出る。努力すればするほど良いほうにも悪いほうにもしっかりと結果が出る。気候が相手ということもあり、思ったように育たない、作業できないという



山脇 武之さん

平成31年3月 就農科修了

- 1 自営就農 「山脇農園」（脱サラリーマン農業）
- 2 守山市できゅうりを栽培（ビニールハウス2連棟600m） 売り先（京都市場、道の駅）
- 3 脱サラした後、小さい頃から好きだった農業をやりたいと思い、調べていくうちに農大にいきつきました。農協からの紹介できゅうり農家のハウスを譲っていただきました。譲っていただいた方から1年間きゅうりの育て方から、元肥の量、市場出荷の仕方、ダンボールの購入先など色々教えていただきました。
- 4 捨てるきゅうりをゼロにすることが大変です。売れる量などが当初分からなかったため、余ったきゅうりをどう捨てるかが大変でした。
- 5 大学で学んでいない自分に合う栽培方法を毎年チャレンジしていき、4年目でやっと納得のいくスタイルが見つかりました。それは摘心栽培からつるおろし更新栽培に変更した点と、菌力アップという液肥を見つけたことが大きいと思います。
- 6 土地の拡大をすることができたので、露地栽培で何を作るか、農協の方などに相談しながら品目を決めてやりたいのと、ネット販売にも力をいれていきたいです。
- 7 農大では楽しく仲間を作るだけでもいい。農業という同じ職業につく仲間に出会えることが一番の宝物だと思います。就農後は一人になりますが、きゅうりの育て方、見積り、保険関係など様々な相談が農大の同期にできるので心強いです。
- 8 就農する地域で売り先が変わったりします。道の駅である（おうみんち、きてか～な）に出せる地域と出せない地域があります。大きい道の駅では売れる量が違うので出荷できる場合はメリットだと思います。また最初の就農した土地が広いと後々駐車場にできたり、ハウスを増設できたりするので良いと思います。後々増やしたい場合は少し離れた場所しか見つからなかったりする可能性があると思います。

- 大変さもある。
- 5 嫌な作業も楽しくできるように考え実行。部分的に播種前契約をし、単価決定されていることで生産に集中できる。発展は周りの信用があってこそ。地道にコツコツが一番。
 - 6 楽しい農業・経営。規模拡大。地元集落の維持。
 - 7 学んでおくこと：栽培の基礎知識、農薬肥料の知識、農家つながりの大切さ。学んでよかったこと：栽培の基礎知識、農家つながり、資格。
 - 8 ・失敗してもいいのでチャレンジ
・あきらめない ・楽しむ
・先輩農家には頼りまくる

農大卒業生・修了生の紹介

～就農して活躍しています！～

卒業生・修了生に「聞きました」

- 1 就農形態
- 2 就職就農：就農先、自営就農：経営形態（作目）就農されている市町名
- 3 就農までのみちすじ
- 4 就農して大変なこと・やりがい
- 5 就職就農：就農先での作業の工夫や努力していること、自営就農：栽培や経営の工夫、経営発展のポイント
- 6 今後の目標
- 7 就農に向けて農業大学校で学んでおくべきこと。就農後、学んでよかったなど実感できること
- 8 これから農業を始めたい人へのアドバイス（自営就農に就きたい人）（就職就農に就きたい人）



加藤 純弥さん

令和2年3月 養成科卒業

武田 博幸さん

平成25年3月 養成科卒業

柚木 英典さん

令和4年3月 養成科卒業

久保 憲太郎さん

令和5年3月 養成科卒業

森田 睦輝さん

令和5年3月 養成科卒業

- 1 就職就農（農業法人の正社員として就職）
- 2 守山市、ザ・コロナパークス株式会社 びわこみやまフルーツランド（観光農園）の運営。梨（現在4.2ha+予定0.6ha）ぶどう（予定1ha）の生産。地元梨組合の選果、販売、防除の受託。社長と社員5名（農大出身）で頑張っています！
- 3 非農家の生まれだが、田舎の小学校で自然に触れて育ってきたため、農業に興味があり湖南農業高校に進学、JAなどに就職を考えていたが、高校の先生の助言や、もっと技術を修得したいと思い、農大に進学、実習指導員を2年間し就職先を探す中で、高齢化が進む果樹園で新しい会社が立ち上がったことを知り、自分の経験が生かせると思い、就職した。また、実習指導員時代に教えていた学生3名も就職した。（加藤）
- 4 6 農大出身の若手で産地を盛り上げようと頑張っています！栽培だけでなく、経営、販売にも携わることができ、自分たちの頑張りによって今後の方向性が変わることなど責任もありますが、やりがいを感じています。農大との繋がりも強いので、ぜひ勉強しに来てください！（加藤）



村上 大喜さん

平成30年3月 養成科卒業

- 1 自営就農（第三者継承）
- 2 愛荘町 継ノ農園 村上大喜
正規雇用1名 パートアルバイト10名在籍。多品目野菜ハウス1.5a×12棟、露地野菜1.5ha、水稲10ha、観光ひまわり畑50a。主に、多品目の野菜を全国の飲食店へ直接契約で販売している。夏は観光スポットとして、ひまわり畑とトウモロコシ直売に取り組んでいる。
- 3 滋賀農大在学中に先輩の紹介で、アーサーファーム岡部氏と出会う。岡部氏は後継者がいない経営体であり、第三者継承の誘いを受けて就農する。H30年 農地と機械を借りながら、新規で継ノ農園を立ち上げる。R4年 アーサーファームの全ての圃場、施設を継ノ農園に完全統合し、地域の高齢化離農ラッシュの水田を受け入れる。
- 4 農大卒業直後に社会経験の無いままでの経営スタートなので、営農の苦悩+経営の苦悩+社会での立ち回りの苦悩が大変であった。しかし、教を乞える岡部氏存在や、地域の農産普及課、愛荘町商工会のおかげで成長できた。
- 5 農作物と向き合いつつ、人脈も大切に。栽培方法のノウハウや新しい販路を紹介してもらい売り上げを伸ばすことができたので、人付き合いが農業経営発展のポイント。
- 6 現在のレストラン契約販売の拡大、トウモロコシ、ひまわり畑の観光スポットの認知向上。新たなワクワクに出会うこと。
- 7 農大で学んだ予備知識をもとに、農家バイトで実践経験を積むことで、就農後にスムーズな営農ができた。
- 8 資材高騰の影響で農業設備全てを一から揃えての新規就農は金銭的ハードルが高くなっている。滋賀農大や滋賀県農産普及課などの繋がりから、継承を前提に後継者問題を抱える経営体に就農することで金銭的にもノウハウ的にもハードルを下げることができるので、第三者継承も一つのルートとして考えて欲しい。



増田 堂輝さん

平成31年3月 養成科卒業

- 1 就職就農
- 2 甲賀市、侂るシオールファーム
水稲・麦・大豆、野菜（キャベツ、タマネギ、ネギ等50品目）、果（イチジク等）、花などの複合経営。現在総面積110haで栽培。また、玉ねぎドレッシングなど加工品を手掛け、直売所やレストランを運営し6次産業化農業に取り組む。代表今井敏、役員4名、従業員8名、パート3名。
- 3 高校1年生の時、親の勤めで見学に行った観光ブドウ園で農業に興味を持ち、農業大学校に進学した。農業大学校の農業体験学習で派遣先となった侂るシオールファームに就職させていただくことになった。野菜を担当。就職2年目に、会社の若手6人で「アイメックトマト」の子会社「ROPPO」を設立した。
- 4 栽培するところから販売まで全てできる職業は、農業において他にはあまりないと思うので、農業に大きな魅力を感じます。売り方など、まだまだ工夫できることも数多くあると思うので、やりたいこともやりやすいのではと思います。
- 5 作業時間の無駄を減らす為に、導線を意識して作業しています。また、効率よく作業する為にポモドーロ・テクニック（時間管理術のひとつ）を使って作業している時もあります。
- 6 ただ野菜を買ってもらうのではなく、るシオールの増田堂輝が作った野菜が欲しいと言ってもらえるようになりたいです。
- 7 農業に必要な資格などを取れたりすること。
- 8 農大で学んだ栽培方法だけが正解だと思う。先輩社員や普及員さんの言うことにも柔軟に取り入れて作業していく方が効率よく農業のことを知れると思います。



ha、大豆1.2ha、菜0.7ha、販売先は直売所・飲食店・個人販売

- 3 高校生の時に農業体験に参加し、様々な機械に乗らせていただき農業に興味を持ちました。その後農業大学校に入学し様々な体験をさせていただきました。卒業後は約2年間大きな法人でお世話になり新規就農をしました。
- 4 農業は辛いことやうまくいかないことが多いかもしれませんが、成功した時には感動を得られるよい仕事だと思います。
- 6 耕作面積を増やし、規模拡大と地域貢献をしていきたい。農業の魅力を様々な方に発信できるように、魅力のある農家を目指したい。



増田 慈さん

平成31年3月 養成科卒業

- 1 自営就農（心虹ファーム）
- 2 彦根市、水稲・麦・大豆・野菜（キャベツ・白菜・ブロッコリー等）、稲面積4
- 5 滋賀県立農業大学校

農大卒業生・修了生の紹介

～就農して活躍しています！～

卒業生・修了生に「聞きました」

- 1 就農形態
- 2 就職就農：就農先、自営就農：経営形態（作目）就農されている市町名
- 3 就農までのみちすじ
- 4 就農して大変なこと・やりがい
- 5 就職就農：就農先での作業の工夫や努力していること、自営就農：栽培や経営の工夫、経営発展のポイント
- 6 今後の目標
- 7 就農に向けて農業大学校で学んでおくべきこと。就農後、学んでよかったなど実感できること
- 8 これから農業を始めたい人へのアドバイス（自営就農に就きたい人）（就職就農に就きたい人）



中山 凌輔さん

平成28年3月 養成科卒業

- 1 就職就農から自営就農
- 2 甲良町にある(農)サンファーム法養寺の理事兼個人農家。法人部門は土地利用型農業、個人農園はブドウを栽培。
- 3 農業大学校卒業後1年間は実習指導員としてお世話になりました。その後(農)サンファーム法養寺へ就職し、同社の園芸部門を譲り受け、中山農園を開業。
- 4 農業は体力仕事に加え、覚えることが多く、その両方で苦労しました。就農して数年がたち、自分で計画した作業を実施できることは大きなやりがいとなっています。
- 5 一番大切に思うのが人と会うことです。自分の悩みなどは多くの方が既に経験されていることが多く、自分の1歩2歩先にいる人たちへ相談することが栽培、経営の両面を発展させるために必要だと思います。地元後継者クラブや青年部などに所属することをお勧めします。
- 6 中山農園のブドウ事業の発展。規模拡大と同時に販路拡大を重視していきたい。また、(農)サンファーム法養寺の代表理事となり地元農業の発展に寄与したい。
- 7 8 農業大学校のカリキュラムは密度が高く、あっという間に時間が過ぎていきます。就農を目的とするなら1日1日をしっかりと学び、大切に過ごしてほしいです。また、農業大学校で得た人間関係は卒業後も関わる頻度が多いため、良好な人間関係を築いてほしい。

目指したい。

- 7 8 栽培に関する知識、できるだけ横の繋がりを持ち、農業大学校にとどまらず企業さんが企画してくださる研修にも向かい、最新技術・経営の難しさ・楽しさ・県外の方との交流をして仲間を作り、就農した際に気軽に相談ができる仲間を作ってください。

滋賀県立農業大学の概要



(令和5年4月現在)

| | |
|--------|---|
| 設置年月日 | 昭和44年4月 |
| 所在地 | 近江八幡市安土町大中503 |
| 設置の経緯 | 次代の農業を担う人材を養成するとともに、農業従事者等に対し農業に関する研修を行うための本県農業者研修教育施設 |
| 設置根拠 | 農業改良助長法（昭和23年法律第165号） 学校教育法（昭和22年法律第26号）：平成19年度より専修学校化 |
| 近隣類似施設 | 京都府立農業大学校、大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校、兵庫県立農業大学校、なら食と農の魅力創造国際大学校、和歌山県農林大学校、愛知県立農業大学校、岐阜県農業大学校、三重県農業大学校（東海近畿ブロック9校、全国農業大学校協議会加盟校47校） |
| 定員 | 養成科（高等学校を卒業した者等を対象に実践教育を行う）：2年制、30名／学年 就農科（就農をめざす多様な人材を育成する）：1年制、15名 |
| 応募資格者 | 養成科 高等学校を卒業又は同等以上の学力を有する者 就農科 修了後県内で農業経営を行い、出願時に農地を確保できる20歳～65歳未満の者 |

養成科

●教育目標

- ①近代的な農業を行うために必要とされる高度な専門知識と技術および経営能力を養成する
- ②実践学習を通じて、農業者としてふさわしい幅広い視野を持った経営能力および組織活動能力を養う

●専攻コース・教育場所

| 課程 | 専攻 | 教育場所 |
|----|-------------|--------------------|
| 農産 | 水田農業 | 本校 |
| | 茶 | 本校・農業技術振興センター茶業指導所 |
| 園芸 | 施設園芸（野菜・花き） | 本校 |
| | 果樹 | 本校 |
| 畜産 | 畜産 | 本校・畜産技術振興センター |

※農業技術振興センター茶業指導所：甲賀市水口町水口6750

※畜産技術振興センター：蒲生郡日野町山本695

●特典

- ①本課程修了者には「専門士」の称号が与えられる
- ②本課程修了者は人事院規則・滋賀県人事委員会規則上、短期大学卒業と同等に扱われる
- ③本課程修了者は4年制農業系大学への編入試験が受けられる（但し編入学制度を有する大学のみ）
- ④就農予定者は、在学中に国の新規就農者育成総合対策（就農準備資金）の支援を受けることができる（ただし、年齢・所得等の要件あり）
- ⑤公益社団法人国際農業者交流協会などが行う海外農業研修に応募できる
- ⑥在学中に多くの資格や免許が取得できる講習を受けられる

就農科

●教育目標

本県内において就農を目指す多様な人材に対して実践的な農場実習や講義を行うことにより、円滑な就農と就農後における安定した農業経営の実現を目指す

●専攻コース

園芸コース（野菜・花き・果樹）

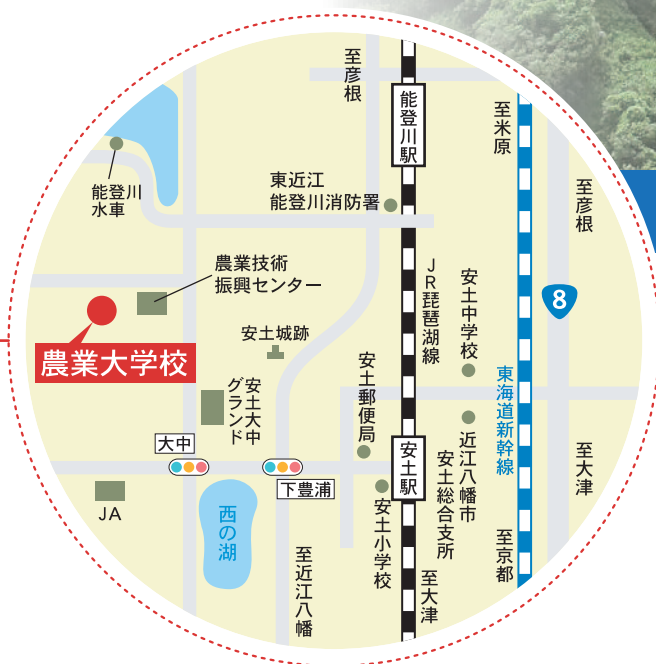
●特典

- ①就農に向け県農業技術職員によるきめ細かい指導が受けられる
- ②就農予定者は、在学中に国の新規就農者育成総合対策（就農準備資金）の支援を受けることができる（ただし、年齢・所得等の要件あり）
- ③養成科の講義も受講でき、養成科同様に多くの資格試験の受験機会がある

農を拓く人材に 夢・希望を 実現する学校！

本校所在地と交通手段 ACCESS

- ◆JR 琵琶湖線「安土駅」より5 km、タクシー10分
- ◆JR 琵琶湖線「能登川駅」より5 km、タクシー10分



専修学校

滋賀県立農業大学校

〒521-1301

滋賀県近江八幡市安土町大中503

TEL.0748-46-2551

FAX.0748-46-2552

e-mail gc61@pref.shiga.lg.jp

<https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/daigakkou/about/>

この印刷物はグリーン購入法適合用紙を使用しています。



農大HPQRコード